

主な出来事

【内政】

●10月10日、アダルベルト・コスタ・ジュニオール UNITA 党首は、11月末に実施される党首選への立候補を正式に表明した。

●10月15日、ロウレンソ大統領は、第5期国民議会第4回開会式における演説にて、取り組むべき課題として、保健及び教育分野を挙げるとともに、アルヴォル協定の署名者に勲章を授与することを発表した。

【外交】

●10月9日、ロウレンソ大統領はベルギーのブリュッセルにて開催されたグローバル・ゲートウェイ・フォーラム 2025 に出席。演説にて、同フォーラムは、課題解決に向けてアフリカ連合(AU)と欧州連合(EU)を橋渡しする機会であると述べた。

●10月23日、フロリベル・アンズルニ・イジロケシ／コンゴ(民)地域統合大臣は、フェリクス・チセケディ同国大統領特使として、アンゴラを訪問。11月15日に開催されるアフリカ大湖地域国際会議(ICGLR)に正式に招待する書簡を手交。

●10月28-31日、アンゴラにて第3回アフリカ・インフラ資金調達サミットが開催された。

【日アンゴラ関係】

●10月10日、ロウレンソ大統領は、JBIC等の融資により豊田通商及び東亜建設等により修復されたナミベ港及びナミベ・シネマスタジオの完工式に出席した。

●10月13日、大阪・関西万博に出展したアンゴラは、「モジュール型パビリオン外観デザイン部門」金賞を受賞した。

【経済】

●10月6日、アンゴラは17億5,000万米ドル相当のユーロ債を発行した。ユーロ債のソブリン発行は2022年以来のこと。

●10月12日、欧州連合はグローバル・ゲートウェイの枠組みで、アンゴラ農林省の「アグロインベスト」事業に対し、5,000万ユーロの資金援助をする旨発表した。

●国家統計局(INE)によると、9月のインフレ率は前年同月比18.16%。

* 本月報は当地主要紙 Jornal de Angola 紙を中心に、月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです。

内政

1. アダルベルト・コスタ・ジュニオール氏の
UNITA 党首再選への立候補表明

10月10日、アダルベルト・コスタ・ジュニオール UNITA 党首は、11月末に実施される党首選への立候補を正式に表明。対抗馬には、初代 UNITA 党首ジョナス・サビンビ氏の息子であるラファエル・マッサンガ・サビンビ氏がいる。

2. 子宮頸がんワクチン接種キャンペーン

10月13日、子宮頸がんワクチン接種のための啓発キャンペーンが開始され、開幕式にはアナ・ディアス大統領夫人も出席。同ワクチンの接種は、10月27日から11月7日まで9～12歳の少女を対象に全国の学校、保健施設等で実施される。

3. ロウレンソ大統領による国会開会演説

10月15日、ロウレンソ大統領は、第5期国民議会第4回開会式にて演説を実施。演説にて同大統領は、現在取り組むべき課題として、保健及び教育分野に言及。また、国民和解及び国家統一の精神のもと、アルヴォル協定の署名者(MPLA: アゴスティーニョ・ネト、FNLA: ホールデン・ロベルト及びUNITA: ジョナス・サビンビ)全員に独立50周年記念勲章メダルを授与することを発表した。

4. TAAG便のアゴスティーニョ・ネト国際新空港への完全移行

10月19日から、アンゴラ航空(TAAG)便は国際線を含め全線アゴスティーニョ・ネト国際空港での発着となった。

5. コペリパ将軍及びディノ将軍の裁判延期

10月20日に実施が予定されていた「コペリパ」将軍及び「ディノ」将軍の裁判(両人は、ドス・サントス大統領時代にアンゴラと中国の融資協定を利用した詐欺を企て、アンゴラ政府に数百万米ドルの損害を与えた疑いがある)は、最高裁判所が提出した285項目の質問事項により、無期限延期となった。

6. 国連デー記念ラウンド・テーブルの開催

10月24日、ルアンダの外交アカデミーにて、国連設立80周年を祝い、「国連は不可欠か？多国籍主義、振り返りと今後の道筋」をテーマとしたラウンド・テーブルが開催された。オスヴァルド・ヴァレラ外務副大臣は、国際的な平和と安全を維持す

るためには、国連の成果の維持が不可欠であると強調するとともに、国連の構造は新たな現実に適応する必要があると主張した。

外交

1. 米新臨時代理大使の着任

10月8日、シャノン・ナギー・カゾー米新臨時代理大使は、テテ・アントニオ外務大臣と会談を実施し、二国間協力の継続について意見交換を行った。同日に開催された外務省主催イベント「国家独立達成と維持におけるアンゴラ外交の役割に関する会議」が新臨代の正式な紹介の場となった。

2. ロウレンソ大統領のグローバル・ゲートウェイ・フォーラム 2025 への参加

10月9日、ロウレンソ大統領はベルギーのブリュッセルにて開催されたグローバル・ゲートウェイ・フォーラム 2025 に出席。演説にて、同フォーラムは、アフリカ連合(AU)と欧州連合(EU)が責任を共有し、課題解決に向けて両者を橋渡しする機会であると述べた。

3. イスラエルのガザにおける停戦合意に対するロウレンソ大統領の声明

10月9日、ロウレンソ大統領は、「トランプ米大統領、エジプト、カタールの仲介により、イスラエル国とハマス代表団がガザにおける停戦合意に達したことを歓迎する」との声明を出した。また、同声明において、パレスチナとイスラエルの二国家解決の実現に向けた国際社会の関与を呼びかけた。

4. 大阪・関西万博における最優秀外観デザイン賞の受賞

10月13日、アンゴラは大阪・関西万博の閉幕式にて、「モジュール型パビリオン外観デザイン部門」金賞を受賞。アルビナ・アシス総代表は、同万博につき異なる大陸の国々の友好関係を強化する機会であり、アフリカにとって世界への扉を開くものだったと強調した。

5. コンゴ(民)特使のアンゴラ訪問

10月23日、フロリベル・アンズルニ・イジロケシ／コンゴ(民)地域統合大臣は、フェリクス・チセケディ同国大統領特使として、アンゴラを訪問。同特使は、ロウレンソ大統領を11月15日にキンサシャで開催されるアフリカ大湖地域国際会議(ICGLR)に正式に招待する書簡を手交。ロウレンソ大統領からICGLR議長を引き継ぐコンゴ(民)大統領への助言及び支援を求めた。

6. 第3回アフリカ・インフラ資金調達サミットの開催

10月28-31日、ルアンダにて第3回アフリカ・インフラ資金調達サミットが開催された。ロウレンソ大統領は、開幕式典にて、アフリカ開発銀行がアフリカのインフラ整備には1,300~1,700億米ドルが不足しているとの推定に言及。インフラ開発がAUの掲げる「アジェンダ2063」の成功如何に直結する旨強調した。

同サミットでは、13件、総額180億米ドルの資金が調達された。

経済

1. ユーロ債の発行

10月6日、アンゴラは17億5,000万米ドル相当のユーロ債を発行した。ユーロ債のソブリン発行は2022年以来のこと。財務省は、同発行について、資金源の多様化、公的債務管理の最適化及び「国のリスク認識と世界経済の状況に沿った」国家予算の安定化を目的としたものと説明している。

2. ナミベ湾包括開発プロジェクト完工式へのロウレンソ大統領の出席

10月10日、ロウレンソ大統領は、ナミベ湾包括開発プロジェクト港完工式に出席。同港は、JBIC及び民間銀行の融資により、豊田通商及び東亜建設等とアンゴラ政府との協力のもと修復が行われた官民連携事業であり、コンテナ3,000個分の

収容能力を持つ。また、同大統領は、豊田通商とのナミベ州政府との覚書によって修復された建築的・文化的シンボルであるナミベ・シネマスタジオの開所式にも参加した。

3. 欧州による「アグロインベスト」への資金援助

10月12日、欧州連合はグローバル・ゲートウェイの枠組みで、アンゴラ農林省の「アグロインベスト」事業に対し、5,000万ユーロの資金援助をする旨発表。同事業は、ロビト回廊沿いの農業従事者への支援を目的に、農業の近代化、輸出用の包装室などのインフラ整備を行うもの。

4. 失業者の定義変更

10月12日、国家統計局(INE)は、国際労働機関(ILO)の決議に沿って、来年から失業の定義を大幅に見直す旨発表した。同変更により、現在推定500万人とされている失業者数は減少する見通し。

5. 9月のインフレ率

INEによると、9月のインフレ率は前年同月比18.16%。

6. アンゴラ・ザンビア間の鉄道建設

10月18日、リカルド・デ・アブレウ運輸大臣は、アンゴラ・ザンビア間の鉄道建設に関し、現在、実現可能性調査、環境・社会影響調査、インフラの設計が行われており、2026年に着工する見通しである旨明かした。

6. 住宅、水道網及び電力網の建設推進に向けた支出

10月21日、ロウレンソ大統領は、ミトレリ・グループのルミナール・ファイナンスとの融資契約に基づく5億米ドル以上の支出に署名。ザイレ州ムバンザ・コンゴにおける1,500戸の住宅建設、ルアンダ州における水道網及びウアンボ州における電力網の整備を推進する。

(了)
